

# Yomo Yomo

ホントに

～10代のあなたに～

体力なら

きもち

みかけは



『アート少女 根岸節子とゆかいな仲間たち』

花形みつる / 著 ポプラ社 2008

“根岸節子とその仲間たち”を校内で知らない人はいない。美術部を目のかたきをしている理不尽な校長と戦う、アート系問題児として。部室と活動費を失い、イケメンのポートレート作成でこっそり稼いだお金すらも奪われ、廃部寸前まで追いこまれても節子たちはめげない。気合いと情熱を武器にアートするのだ！

本の中で熱中！  
文化部も 運動部も

**部活サイコー！**

『少年少女飛行倶楽部』

加納朋子 / 著 文藝春秋 2009

中学生になった私は、「飛行クラブ」に入るはめになってしまった。「空を飛ぶこと」を目的とする、怪しいクラブだ。空を飛ぶって、一体どうやって？おまけに部員はひとくせもふたくせもある連中ばかりだ。しかたなく参加していたけれど、気がつくとも本気で空を飛びたいと思うようになっていた。



『たまごを持つように』

まはら三桃 / 著 講談社 2009

不器用で弓道に自信がない早弥。才能がありながらもスランプからなかなか抜け出せない実良。黒人の父を持ち弓道を愛する春。時にはぶつかることもあるが、しだいに心を通わせていく3人。たまごを持つように、優しく弓を握り、自分と仲間を信じて矢を放つ。

中学生の友情、恋を描いたさわやかで瑞々しい青春小説。



# 本のサブリ **読めば元気！！**



『雪の結晶ノート』

マーク・カッシーノ/ジョン・ネルソン/作 千葉茂樹<sup>しげき</sup>/訳  
あすなる書房 2009

小さくて、はかなくとけてしまう雪の結晶。それは複雑<sup>ふくざつ</sup>な形をしていて、全く同じ形のものはありません。一体どのようにしてこんな美しいものが生まれてくるのでしょうか？雪の結晶ができるためには、ある意外なものが必要なのです。

美しい写真に思わず魅<sup>み</sup>せられてしまう本です。

『いつも通りの日々』 早川司寿乃<sup>しげの</sup>/著  
ポプラ社 2009

晩ごはんの仕度をしていると、くまが訪ねてきたり、やかんやラジカセから小人が現れたりする世界。不思議の国に迷いこんでしまったような感覚はゆるやかで心地よく、ほっとした気分になります。



『ここだけは行ってみたい 絵画のある景色 世界の名景・絶景55(世界名景紀行)』 ピエ・ブックス 2008

この本には「あれ、どこで見たっけ?」「なんだか、見た覚えはあるんだけど」という写真がつまっています。それもそのはず。名画と呼ばれる絵が描かれた場所の写真ばかりを集めたものです。ゴッホの描いた「アルルの跳ね橋」やモネの「睡蓮の池」、ワイエスの「クリスティーナの世界」など、きっと教科書で見た覚えのある人も多いでしょう。

実際に行ってみてみたい人のために、簡単なガイドもついてます。一冊で何通りにも楽しめる、お得な本です。



『世界のシェー！！ フジプロ公認(よりみちパン！セ)』

平沼正弘<sup>まさひろ</sup> / 著 理論社 2010

『イヤミ』というキャラクターを知っていますか？  
1960年代に漫画家、赤塚不二夫<sup>あかつかふじお</sup>が生み出したキャラクターです。イヤミにはお得意のポーズがあります。それが「シェー！！」なのです。どんなポーズかは、30歳以上の大人に聞いてみてください。そしてこのポーズ、実は誰もが笑ってしまう不思議なポーズなんです。

すべてのページに世界中の笑った顔があるこの本。笑顔が出てこなくなったら一度開いてみてね。



『おなやみジュース (15歳の寺子屋)』<sup>れいじょう</sup> 令丈ヒロ子 / 著  
講談社 2009

勉強、家族、友だち、恋愛。中学生ともなれば、だれでも悩みの一つくらいあるよね。『若おかみは小学生!』の作者、令丈ヒロ子さんが最初にぶちあたった大きな悩みは、そう、進路について。実は令丈さんは、最初から作家になろうと思っていたわけではなかった。

あなたは今、どんなことについて悩んでる？



『一編の詩<sup>いっぺん</sup>があなたを強く抱きしめる時がある』

水内喜久雄 / 編 PHPエディターズ・グループ 2007

毎日の生活にちょっと疲れてしまったら、この本を開いてみてください。「生きること」をテーマに、教科書で習った谷川俊太郎、工藤直子から、福山雅治、ビートたけしまで、様々なジャンルの人の詩が集められています。人気の歌詞もあります。

選ばれた言葉の数々は、きっとあなたに力を与えてくれるでしょう。



# 怪談



『炎たる沼』 池田美代子 / 著  
講談社 2010

中学校の写真部で部長の撮った廃墟の写真を見た瞬間、凜は首筋を這う気味の悪い感覚に襲われた。しかも、他の人には見えないあり得ないものが見えた。その後も撮影者の部長と凜は変な発作に襲われる。発作、心靈写真、その謎を解くために部長はもう一度廃墟行きを決め、凜はいよいよやながら参加することになる。



『「怖い」が、好き！ (よりみちパン!セ)』  
加門七海 / 著 理論社 2010

苦手だなと思っていても、つい聞きたくなってしまうのが怖い話。私たちは、なぜ怪談話に心ひかれてしまうのか。それは、日本人が昔から「あらゆる物には魂がある」と信じてきたから。

怖い話が大好きという著者が、日本人の「不思議な物に引きつけられてしまう気持ち」について、様々な角度から解説します。



『船乗りサッカーの怖い話』

クリス・ブリストリー / 著 三辺律子 / 訳 理論社 2009



ひどい嵐の夜、人里離れた海岸の家で父の帰りを待つ兄妹の前に、一人の謎めいた船乗りが現れた。嵐から助けられたことに感謝した彼は、兄妹が怖い話が大好きだと知り、旅の途中で聞いた話の数々を語り始める。不思議で恐ろしい話に引き込まれる二人。そしてその話は、船乗りと兄妹の運命にもつながっていたのだ。



『モルグ街の殺人事件』

E. A. ポー / 作 金原瑞人 / 訳 岩波書店 2002

怖い話の名手、エドガー・アラン・ポー。『モルグ街の殺人事件』や『黒猫』に代表されるように、作中では背筋も凍る残忍な事件が淡々と語られ、そこには常に暗く不気味な空気が漂っています。人間の心の闇に潜む「怒り」「憎しみ」「恐れ」などの感情は、ポーの手によって恐怖へと形を変えていくのです。



『百器徒然袋 - 風』  
京極夏彦 / 著 講談社 2004

圧倒的な存在感で悪を打ち砕く薔薇十字探偵、榎木津礼二郎の活躍するシリーズ完結編。中でも第四番の「五徳猫」は、絶妙な語り口で猫にまつわる様々な伝承をもちこんだ傑作。またラストを飾る第六番「面霊気」では傍若無人な榎木津礼二郎の意外な側面がわかる。関口や京極堂などおなじみのメンバーが奮闘するシリーズ前作『百器徒然袋 - 雨』も読むべし。



『怪談 小泉八雲怪奇短編集』

小泉八雲 / 作 平井呈一 / 訳 偕成社 1991

八雲が集めた、日本古来から伝わる怪談集です。人が持つ、妬み、強欲さ、愚かさが“おばけ”となって出てきます。それは今はやりの都市伝説も同じです。テレビや携帯電話から生まれる怖い話でも、恐怖の元にあるのは昔から変わらず心の闇の中。

時代を超えた恐怖をお楽しみあれ。



どれを読んでもおもしろい

# 品質保証

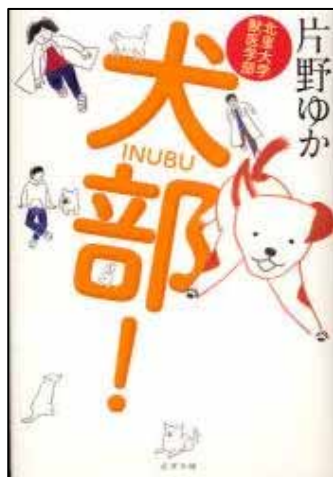
賞味期限はありません

『E g g s 夜明けなんて見たくない』

ジェリー・スピネッリ / 作 千葉茂樹 / 訳  
理論社 2009

祖母と暮らすデイビット、9歳。占<sup>うらな</sup>いの師の母親と暮らすプリムローズ、13歳。二人は衝<sup>しょうげき</sup>撃的な出会いをする。居場所がないと感じている彼らは、夜中に家を抜け出すことを繰<sup>く</sup>り返し、激しく反<sup>はんぱつ</sup>発しあいながらも、お互いの心の秘密がしだいにわかり始める。

心の傷<sup>きず</sup>を抱<sup>かか</sup>える子どもたちをリアルに描く。



『犬<sup>いぬぶ</sup>部! 北里大学獣医学部』

片野ゆか / 著 ポプラ社 2010

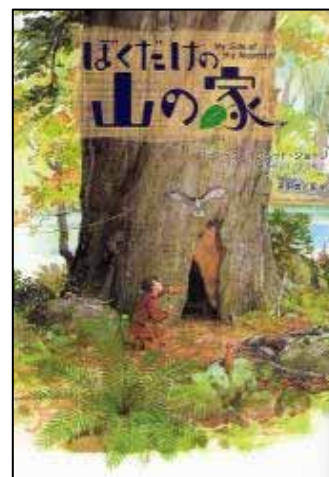
青森県にある北里大学獣医学部のサークル、犬部では、行き場を失った動物を助ける活動をしています。病<sup>びやう</sup>気や怪<sup>けが</sup>我の犬や猫、人間の勝手な都合で捨てられてしまった動物を年間約100匹も面倒をみています。学生たちにとって金<sup>きん</sup>銭<sup>せん</sup>的にも時<sup>じ</sup>間<sup>かん</sup>的にも負<sup>み</sup>担<sup>たん</sup>は大きいのですが、真剣に動物保護に取り組む姿に思わず涙がこぼれます。

『ぼくだけの山の家』

ジーン・クレイグヘッド・ジョージ / 作  
茅野美ど里 / 訳 偕成社 2009

サムはニューヨークの家を出て、大自然が残る森の中に住むことにしました。自分で火をおこし、魚をとり、木のうろに寝<sup>ね</sup>床<sup>どこ</sup>をこしらえ、鹿<sup>しか</sup>皮<sup>がわ</sup>で衣服を作り、やがてくる冬にそなえます。ハヤブサの友やイタチやアライグマのご近所さんがいるからさみしくはありません。

自然と寄り添<sup>よ</sup>り添<sup>そ</sup>って生き抜く少年の一年間の物語。





## 『いつまでもここでキミを待つ』

ひろのみずえ / 著 ポプラ社 2010

中学3年生の奏は、美術系高校を目指して学習塾と美術スクールに通い、いつも時間に追われている。ある日、帰りの電車を待っていると、寝台特急サンライズ出雲号が入ってきた。進路や毎日の生活に疑問を感じていた奏は、衝動的に飛び乗ってしまう。そこで中学2年生の一馬と出会い、知らない土地を訪れながらお互いの悩みを語り合う。

## 『グリーンフィンガー 約束の庭』

ポール・メイ / 作 横山和江 / 訳

さ・え・ら書房 2009

文字を読むことに苦手意識があるケイト。家族5人で郊外の古びた一軒家に引っ越してきたが、新しい学校でもクラスになじめなかった。そんなとき、友人の祖父ウォルターと知り合い、ケイトの家の庭が以前はとても美しかったと聞かされる。彼女は庭づくりに夢中になっていき、しだいに生き方を考え直すようになる。



## 『世界がぼくを笑っても』

笹生陽子 / 著 講談社 2009

中学2年生の始業式。着任式で満面の笑みを浮かべて壇上に立つ、見るからにやぼったい先生。緊張のあまり脳貧血で倒れたその先生が、よりによってオレの担任とは…。やる気満々だけど、なんだかずれている。他のクラスにまでばかにされ、オレたちはやってられない。でも、先生は教えてくれたんだ。「笑う」ってことの強さをね。



『マイナークラブハウスへようこそ!』<sup>きじかえこ</sup>木地雅映子 / 著 ポプラ社 2010



部員5人未満の文化部が入った桃李学園桃園会館、通称マイナークラブハウス。ここに集うのは「みんなと一緒に」の枠組みから外れることを恐れない、一風変わった個性的な生徒たち。家庭の事情や、自分自身の問題を抱えながら、恋に部活に合宿に一喜一憂する高校生の物語。



『昆虫部』<sup>すぎもとたかし</sup>梶本孝思 / 著 幻冬舎 2010

高校に入って友達も作らず、「人生はタイクツだ」とつぶやく<sup>そう</sup>颯太郎。2学期になり、不本意ながらも、部員2人という昆虫部に入部していた。いつでもやめるつもりだったのに、他の2人のペースにのせられたまま、颯太郎が文化祭に打って出た驚きの出し物とは。

昆虫の<sup>せいたい</sup>生態には生きるヒントがいっぱいだ。



『園芸少年』 魚住直子 / 著 講談社 2009

高校入学早々、強引な運動部の勧誘を断る口実でとりあえず園芸部に入るようになった、大和田とオレ。水をやり、草花がしゃんとするのを見ると、なんだか楽しい。不良みtainな風貌の大和田は園芸書を読んでまじめに研究している。段ボールをかぶって相談室登校をしている庄司も加わって、3人の活動が始まった。

『部活魂!』 岩波書店編集部 / 編 岩波書店 2009

全国各地の中学校や高校から、現役の生徒たちが自慢の部活動を紹介する。陸上部、サッカー部、吹奏楽部、調理部、ハンドベル部、書道部、<sup>しゃおどりば</sup>龍踊部など。スポーツ系でも文化系でも、まずはどんな活動をしているのかのぞいてみよう!そこにはかけがえない仲間たちが待っている。



~ 編集後記 ~

こんな部活があったら楽しそう。時には心を休めながら、人生を味わってください。

箕面市立図書館ホームページアドレス

<http://www.city.minoh.lg.jp/library/index.html>

編集・発行：箕面市立図書館 箕面市立小・中学校図書館

問い合わせ先：箕面市立中央図書館 072-722-4580

発行日：平成23年(2011年)2月